

かわらばん

編集・発行

大阪はびきの医療センター

大阪府羽曳野市はびきの3丁目7-1
TEL: 072-957-2121 FAX: 072-958-3291
E-mail: kokyuken@ra.opho.jp

令和元年7月

第241号

ホームページ



新病院の建替え・整備を進めていきます。

事務局長 美濃 喜介

当センターの現病棟は、昭和48年に建設され、建築後46年以上が経過し、老朽化が進んでいます。患者さんの療養環境や医療安全などの面から、早期の建替えが必要となってきましたが、このたび、大阪府の予算で、建替え整備の予算が認められ、2022年度中の完成を目指し、新病院の整備を進めていくことになりました。

外観イメージ



新病院の計画概要は、以下のとおりです。

(計画概要)

- ・階数 : 地上6階、塔屋1階
- ・構造 : 鉄骨造(免震構造)
- ・延べ床面積: 約33,700㎡
- ・病床数 : 405床
- ・診療科 : 23診療科

(今後の医療需要の動向を踏まえて柔軟に対応)

- ・竣工予定 : 2022年度(新病院開院)



南東側上空から見た新病院のイメージ

「むち打ち症」について

麻酔科主任部長 高内裕司

いわゆる「むち打ち症」は、追突や衝突などの交通事故によって起こる頸部外傷の局所症状の総称で、外傷性頸部症候群とも呼ばれます。頸部への負荷による運動器や軟部組織の外傷で、頸部痛や頸部のこわばり感、頭痛、めまい、異常感覚、記憶障害などの認知神経機能障害など多彩な臨床症状を次々に発症することがあります。

むち打ち症の病態生理の詳細は依然として不明で、診断のための客観的評価方法はありませんが、これらの病態には心理社会的要因が関与しているという報告もみられます。

たとえば日本の交通事故関連の「むち打ち症」1000例について調査した研究では、平均治療期間は73.5日であり、事故後3か月時における治療率は70%でした。また6か月以上の治療期間を要した症例は、通院例が7.7%に対し、入院例は31.5%で、入院そのものの治療期間への影響が考えられています(1999年の報告)。一方で、追突事故の被害者に対して事故

補償制度自体がないギリシャでは、事故後に頸部痛や頭痛、めまいなどの症状は生じるものの、患者の90%以上は4週間以内に症状が改善し、6か月後に障害を訴える事例はありません(2000年の報告)。以上のようにむち打ち症の回復に対する経済的補償の有無の影響については難しい問題です。

運動器痛に関するペインクリニックの観点から、「むちうち症」の治療について推奨されていることは以下の通りです(IASP 2010)。頸部の固定具の装着は、むち打ち症からの回復を遅らせる可能性があり、急性期・慢性期ともに有効性が期待されるのは、①頸椎の運動を通常通り行って良いことを説明し、過度の安静をしないように教育し実践させること、②関節可動域の拡大を目的とした運動や筋活動に着目した運動など規定の機能的な運動療法、などです。麻酔科では、マンパワーの問題でペインクリニック外来は未開設ですが、主として入院患者に対し、個別的ながら可能な範囲で各診療科への疼痛管理に関する助言や神経ブロックなどの介入を行っています。



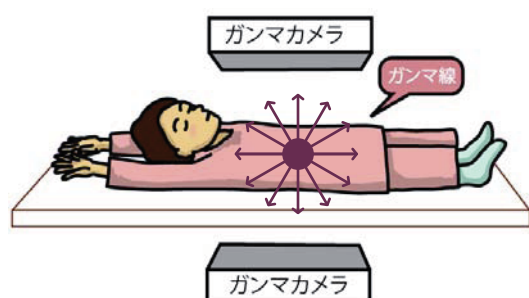
RI(ラジオアイソトープ)検査について

放射線科 濱田勇輝

RI(ラジオアイソトープ)検査についてお話しします。

RI検査は微弱な放射線を出す薬剤(放射性医薬品)を投与(静脈注射・内服など)して、その薬剤が体内でどのような分布になっているかをみる検査です。ガンマカメラという専用の装置で撮影を行い、得られた画像を解析することで、臓器の機能(血流、代謝など)や形態(大きさや形)などをみることが出来ます。目的部位によって専用の薬剤があり、投与の方法や、撮影までの待ち時間なども異なります。また、検査に使用する専用の薬剤は生鮮食品のようなもので、使用できる期限が非常に短いため、検査の予約変更やキャンセルなどはできるだけ早めにご連絡お願い致します。

次に、当センターで主に行っている検査について少しお話しします。当センターで主に行っているのは、骨シンチグラフィ、肺血流シンチグラフィです。骨シンチグラフィは全身の骨をみる検査で、専用の薬剤を静脈注射して全身にその薬剤が行き渡るのを待ってから撮影を行います。(2、3時間程度待ってから撮影します)肺血流シンチグラフィは肺の血流をみる検査で、画像を解析することで肺の機能や肺の血管に血栓が詰まっていないか(肺血栓塞栓症)などをみることが出来ます。肺血流シンチグラフィは専用の薬剤を静脈注射してすぐに撮影を行います。



どちらの検査も撮影時間は20~30分ほどで、仰向けでじっと寝ているだけで終わるので比較的苦痛の少ない検査になっています。撮影の際、息止めはありませんが撮影中に動いてしまうと画像がうまく撮れないのでご協力よろしくお願いします。また、装置のカメラが目の前まで近づきますので閉所恐怖症がある方は、予めお伝えいただくと幸いです。

◆◆◆7月の教室案内◆◆◆

◆カンガルー教室	7月 3・17・24日	午後1時30分~	第1会議室
◆アトピーカレッジ	7月 5・12・19・26日	午前10時~11時	第1会議室
◆アトピー教室	7月 5・12・19・26日	午後2時~3時	第2会議室